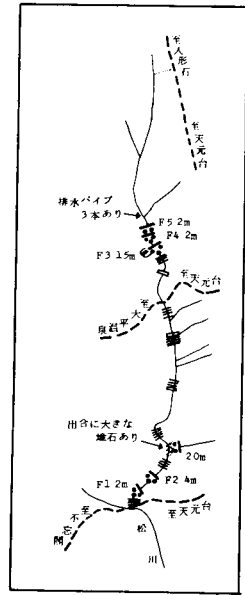


矢 沢 (作図: )

◆ 天気 (晴)

# 矢 沢

一九七八年九月十日



明道沢 (作図: )

松川本流をさかのぼって、八時四〇分矢沢出合に着く。矢沢の水はすっぱくて飲用には不適。出合からナメが断続する。一〇分余りで右岸から小沢が五〇メートル程の滝をかけて合流。矢沢の水がすっぱいのはこの小沢の水のせい。ここから上流は充分飲用に耐える。ここからも小滝をまじえてナメが続く。やがて一五メートルの滝。左岸を小さく捲く。この先も五〇〜一〇〇メートル位の長さのナメが次々に出てくる。沢幅はせまいものの傾斜はゆるやかなので、ペースは早い。左岸に大きなスラブを見ながら、なおも断続するナメを登る。一〇時二五分、今はこわれ去った木製のダムを越えて二俣に着く。左俣は七メートルの滝がかかるが、楽に登れそうだ。右俣にルートをとる。五メートルの小



合 出 沢 矢

滝があり直登。出合から断続していたナメが途切れ、もう沢も終わりに近い。一一時二〇分昼食をすませ六メの滝を越えるとまた二俣、左沢の方が本流のようであるが、もうどちらをつめても同じようなものなので、稜線に近うと思われる右沢をとる。ブッシュがかぶさり歩きにくくなる。いつしか水の流れも消える。スキーやタイヤ、カン類などのゴミがあらわれてきたところで沢筋も消えるが、五分もしないうちに天元台ロープウェイ駅から少し下った地点。インターハイコースとダウンヒルコースの分岐点に飛び出した。一二時五〇分 (記・

〔タイム〕

出合八・四〇―二俣一〇・二五―稜線一一・五〇

## 横 川

一九七八年九月十日

◆天気(晴)

横川の入口は狭く、山ブドウのつるがふさいでいる。おまけに水量も少なく、期待を裏切られた。半ばあきらめて遡行開始。